

生田緑地の菌類相について (その1)

井口 潔*

Fungal assemblage of Ikuta-Ryokuchi Park, Kawasaki City (1)

Kiyoshi IGUCHI*

I はじめに

最近、各地にアマチュアを中心とした菌類の研究会・同好会が相次いで設立され、各都道府県の菌類相が次第に明らかにされつつあるが、その活動は、とかく立地に恵まれた山岳・丘陵地帯での調査に限定されがちで、一般になじみの薄い糸状菌類(カビ)を対象とした調査はまったく無視されているのが実態である。各都道府県下の菌類相を明らかにするとともに、生態学的な見地からの考察にまで発展させるためには、カビ型の菌についての詳しい調査研究はもちろん、比較的目的につきやすいきのこ類についても、その発生とは縁が薄いと思われるがちな市街地における調査が不可欠であり、しかも実用的なきのこ狩りとは無縁な分類群(食用的価値に乏しいものやきわめて小形なもの、生態的に目につきにくいものなど)をも調査対象とする必要がある。また、周辺地域の開発などによる環境的ストレス(大気汚染・ヒートアイランド現象・水脈の分断・周辺市街地の居住者による攪乱など)に常にさらされている市街地の菌類相は、安定した環境下に成立した森林に比べて短期間に劇的な変化をみせる可能性があると考えられ、その調査はできる限り精密かつ迅速に行なうのが理想であるといえる。しかしながら、調査がより簡便かと思われるきのこ類に限定しても、分類学的・生態学的にきわめて不均一な生物群である上、調査の方法論からしても画一的な取り扱いが難しいこともあり、上記のような見地に立った報告は全国的にみても皆無に近いのが実情である。

筆者は、上記のような観点に基づき、1996年6月上旬より生田緑地(神奈川県川崎市多摩区)内に産する菌類相の調査を開始し、得られた資料標本の分類学的検討を進めてきた。本稿においては、緑地内での発生が確認されたきのこ類のうち、子囊菌類と担子菌類の一部(異型担子菌類および同担子菌類ヒダナシタケ目)に所属する菌群の目録を挙げ、さらに日本新産種や分類学的・生物地理学的に興味ある種類について若干のコメントを与えることとする。

なお、生田緑地での調査は、カビ型の菌群をも含めて続行中であるが、その結果については機会を改めて報告したい。

II 調査方法

1996年6月より1997年11月までの期間中、おおむね月一回の割合で、生田緑地内に発生するきのこ類の調査を行なった。ただし、1996年の8・10・11・12月、および1997年の1~4月と7月については調査を行っていないため、実質的な調査期間は8カ月間にとどまった。また、1997年9月については例外的に3回の調査を行っており、調査に方法論的な問題があることを付記しておく。

フィールドワークを行なうに当たり、調査範囲は特に限定しなかったが、おおむね緑地内の北西部に位置する湿地帯と、川崎市青少年科学館と湿地帯との中間に位置する丘陵上の雑木林を中心とし、さらに青少年科学館の南側に当たる県の木見本園や野鳥観察小屋の周辺についても可能な限り調査の対象とした。

リスト中においては、科以上の分類単位の配列は、原則として今関・本郷(1989)、今関ほか(1988)および大谷(1990)に従ったが、筆者の見解によって多少改変した部分もある。属以下の分類単位については、属名・種形容名(および種以下の分類単位の形容名)のアルファベット順に配列した。なお、有性生殖器官を作らないいわゆる“不完全菌群”の分類体系に関しては諸説があるが、その大半は子囊菌類に属する菌の無性世代(アナモルフ)であると考えられるため、便宜的に子囊菌類の前に置き、科レベルの配列を差し控えて配列した。

III リストおよびコメント

分生子果不完全菌類

ハナサナギタケ *Isaria japonica* YASUDA

鱗翅目のさなぎおよび幼虫の体上: 1996年7月7日 (KIH-A-0871・0874)。

ツクツクボウシタケ *Isaria sinclairii* (BERK.) LLOYD
アブラゼミの終齢幼虫体上: 1997年8月31日 (KIH-A-0887); 同, 1997年9月21日 (KIH-A-0887)。

クモタケ *Nomuraea atypicola* (YASUDA) SAMSON

キシノウエトタテグモ体上: 1996年7月7日 (KIH

—A—0870)；1997年6月28日 (KIH—A—0821)。

オオサムシタケ *Tilachlidiopsis nigra* YAKUSHIJI et KANZAWA

アオオサムシの成虫体上：1996年7月7日 (KIH—A—0872)。

糸状不完全菌類

Sepedonium chrysogenum (BULL.) LINK

イグチ科の子実体上：菖蒲池南側歩道縁，1997年9月21日 (KIH—A—0886)。

テレオモルフは *Hypomyces chrysosperums* TUL. であるが，生田緑地内では見出されていない。

子囊菌亜門 Ascomycotina

盤菌類綱 Discomycetes

チャワソタケ目 Pezizales

ベニチャワソタケ科 Sarcoscyphaceae

シロキツネノサカズキ *Microstoma floccosa*

(SCHW.) RAITVIRR

広葉樹の枯れ枝上：野鳥観察小屋付近，1997年6月28日 (KIH—DS—09286)。

チャワソタケ科 Pezizaceae

フジイロチャワソタケモドキ *Peziza praetervis* BOUD.

広葉樹の腐朽材片上：野鳥観察小屋付近，1996年6月8日 (KIH—DS—11070)。

ピロネマ科 Pyronemataceae

Aleuria luteonitens (BERK. & BR.) GILL.

広葉樹林内の裸地上：県の木見本園，1997年6月28日 (KIH—DS—10284)。

無柄で浅い皿状の子囊盤を形成し，地上に発生する小形種である。ヨーロッパに分布するが，かなりまれなもののようなのである。上記の標本は DENNIS (1968) の記載に比較していくぶん胞子が細長い傾向があったが，その他の点ではよく一致している。日本新産種である。

アラゲコベニチャワソタケ *Scutellinia scutellata* (L.) LAMB.

広葉樹の倒木上：野鳥観察小屋付近，1996年6月8日 (KIH—DS—09269)；著しく湿った地上：自然観察路—枳形山，1997年6月28日 (KIH—DS—10290)；広葉樹の腐朽材片上と周囲の地上：県の木見本園付近，1997年10月19日 (IH—DS—10563)。

Scutellinia sp.

著しく湿った地上および材片上：菖蒲池付近：1997年6月28日 (KIH—DS—10283)。

外観は同科に属するベニサラタケ *Melastiza chateri* (W. G. SMITH) BOUD. に酷似するが，*Scutellinia* 属の特徴である根状毛を備え，胞子が広楕円形～類球形を呈するとともにとげ状～網目状の顕著な紋様をこうむる点で区別される。

ノボリリュウ科

ウラスジチャワソタケ *Helvella acetabula* (L.: FR.) QUÉL.

広葉樹林内地上：1997年5月18日 (KIH—DS—10274 · DS—10275)。

アシボソノボリリュウ *Helvella elastica* BULL.: FR.

広葉樹林内の地上：自然観察路，1997年9月21日 (KIH—DS—10451)；同，菖蒲池付近・枳形山，1997年10月19日 (KIH—DS—10564 · DS—10566)

クラガタノボリリュウ *Helvella ephippium* LÉV.

広葉樹林内の地上：県の木見本園，1997年6月28日 (KIH—DS—10285)。

当初はナガエノケノボリリュウ (*H. ephippioides* IMAI) と同定したが，この学名は現在では *H. ephippium* の異名であるとされている (大谷，1989)。

クロノボリリュウ *Helvella lacunosa* AFZEL.: FR.

林内地上：1997年6月28日 (KIH—DS—10291)。

ズキンタケ科 Leotiaceae

ゴムタケ *Bulgaria inquinans* FR.

広葉樹の倒木上：自然観察路 (木道下)，1997年6月28日 (KIH—DS—10289)。

ニセビョウタケ *Hymenoscyphus scutula* (PERS.: FR.) PHIL.

アザミ類の枯れ茎上：藍染め工房付近，1997年10月19日 (KIH—DS—10563)。

ズキンタケ *Leotia lubrica* (SCOP.: FR.) PERS. f. *lubrica*

広葉樹林内の地上：県の木見本園付近，1997年9月21日 (KIH—DS—10486)。

キンカクキン科 Sclerotiniaceae

ニセキンカクアカビョウタケ *Diccephalospora rufocornea* (BERK. et CURT.) SPOONER

広葉樹の枯れ枝上：1997年6月28日 (KIH—DS—10292)；同，1997年8月31日 (KIH—DS—10411)；同，民家園入り口付近，1997年9月21日 (KIH—DS—10487)。

核菌綱 Pyrenomycetes

ニクザキン目 Hypocreales

ニクザキン科 Hypocreaceae

Hypomyces sp.

テングタケ属と思われる菌の子実体上：県の木見本園，1996年6月8日 (KIH—P—1821)。

上記の標本は未熟で種名の同定にいたらなかったが，宿主表面をおおう菌糸堆が帯褐桃色を呈し，子囊殻が比較的小さい点からして，*Hypomyces hyalinus* (SCHW.: FR.) TULASNE に当たるものではないかと考えられる。

クロサイワイタケ科 Xylariaceae

ツヤクロコブタケ *Hypoxydon truncatum* (SCHW.: FR.) J. H. MILLER var. *truncatum*

広葉樹の枯れ木上：1996年7月7日 (KIH-P-1861)；同，杵形山，1997年10月19日 (KIH-P-2107)。
最近，阿倍(1995)は，世界各地で得られた *H. truncatum* ss.1.の標本について分類学的再検討を行ない，子座や子囊殻の形態および子囊の先端リングの形態に基づいて，日本産の資料を3変種に分割している。上記二点の標本は，阿倍の概念に従えばともに基準変種として扱われるべきものである。

コブリノマメザヤタケ *Xylaria cubensis* (MONT.) FR.

広葉樹 (?コナラ) の腐朽材上：菖蒲池付近，1997年6月28日 (KIH-P-1852)。

日本では鳥取・岡山・石川・鹿児島各県から記録されている (NAGASAWA, 1988)。関東地方からは ROGERS (1984) による千葉県での採集品に次いで第二の記録となるが，恐らく東北地方南部までは普通に分布しているものであろう。

Xylaria persicaria (SCHW. : FR.) BERK. & CURT.

地上に落果したフウ属 (*Liquidamber*) の偽果上：1997年8月31日 (KIH-P-1872)；同，1997年9月21日 (KIH-P-2076)。

黒色・細槍状のきのこで，上部は僅かに膨らみ，粒状に突出した子囊殻の開口部を密布する。子囊胞子は一側が偏圧された楕円形で平滑・黒褐色，螺旋状に走る不明瞭な発芽溝を備える。

本種の学名についてはまだ検討の余地があるが，上記の特徴は ROGERS (1979) による *X. persicaria* の記載にほぼ一致するので，暫定的にこの学名を当てておく。

日本では未記録の菌であるが，筆者はこれを京都市内や東京都八王子市などで見出している。宿主はいずれも

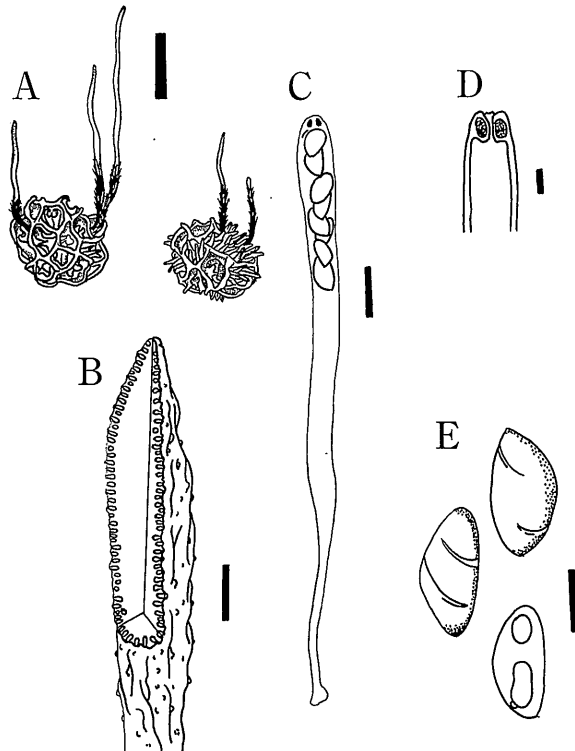


図1 *Xylaria persicaria*. A：子実体. B：子実体先端部の縦断面. C：子囊. D：子囊先端部. E：子囊胞子 (スケール：A=2センチ；B=2ミリ；C, D=10 μ m；E=5 μ m)

フウ属の偽果である。

ウドンコキン目 Erysiphales

ウドンコキン科 Erysiphaceae

Uncinula kusanoi SYDOW var. *kusanoi*

エノキの生きた葉上：自然観察路，1997年10月19日 (KIH-P-2108)。

担子菌亜門 Basidiomycotina

異型担子菌綱 Heterobasidiomycetes

キクラゲ目 Auriculariales

キクラゲ科 Auriculariaceae

アラゲキクラゲ *Auricularia polytricha* (MONT.) SACC.

広葉樹の立ち枯れ木上：自然観察路，1997年6月28日 (KIH-B-2408) 同：県の木見本園，1997年8月31日 (KIH-B-2428)。

ヒメキクラゲ科 Exidiaceae

タマキクラゲ *Exidia uvapassa* LLOYD

コナラの枯れ枝上：自然観察路入り口付近，1997年5月18日 (KIH-B-2391)。

シロキクラゲ目 Tremellales

シロキクラゲ科 Tremellaceae

ロウタケ属の一種 *Sebacina* sp.

地上に積もった広葉樹のリター上：1996年6月28日 (KIH-B-2410)；同，1997年7月7日 (KIH-B-2417)；同，1997年8月31日 (KIH-B-2429)。

上記の標本にはいずれも胞子が形成されておらず，種名は未詳である。

シロキクラゲ *Tremella fuciformis* BERK.

コナラの立ち木上：野鳥観察小屋付近，1997年5月18日 (KIH-B-2392)。

真正担子菌綱 Eubasidiomycetidae

帽菌亜綱 Hymenomycetidae

ヒダナシタケ目 Aphyllorphales

コウヤクタケ科 Corticiaceae

ケシワウロコタケ *Phlebia strigosozonata* (SCHUMD-T) TALBOT

コナラやクヌギの枯れ枝上：自然観察路，1997年10月19日 (KIH-AP-10093)。

ニクハリタケ科 Steccherinaceae

ニクハリタケ *Steccherinum ochraceum* (PERS.) S.

F. GRAY

クリの枯れ枝上：1997年8月31日 (KIH-AP-10048)。

シロソウメンタケ科 Clavariaceae

キノソウメンタケ *Clavulinopsis helvora* (PERS. : FR.)

CORNER

広葉樹林内の地上：県の木見本園，1997年9月21日 (KIH-AP-10065)。

カレエダタケ科 Clavulinaceae

カレエダタケ *Clavulina cristata* (HOLMSK.: FR.)

SCHROET. ss. lato

ヒマラヤスギの樹下：売店付近，1997年9月21日 (KIH-AP-10070)。

カレエダタケモドキ *Clavulina rugosa* (BULL.: FR.)

SCHROETER ss. lato

広葉樹林の林縁：広葉樹林の地上：1996年7月7日 (KIH-AP-09901)；自然観察路入り口付近，1997年5月18日 (KIH-AP-09972)；シラカシ樹下：民家園入り口付近，1997年6月28日 (KIH-AP-09985)；ヒマラヤスギ樹下：1997年8月31日 (KIH-AP-10042)。

アンズタケ科 Cantharellaceae

アンズタケ *Cantharellus cibarius* FR.

ヒマラヤスギやアカマツなどの樹下：県の木見本園，1997年9月21日 (KIH-AP-10066・KIH-AP-10067)。

ヒナアンズタケ *Cantharellus minor* PECK

林内地上：県の木見本園，1997年6月28日 (KIH-AP-09981)；同，県の木見本園，1997年9月21日 (KIH-AP-10068)。

コゲチャアンズタケ *Cantharellus omphalinoides* CORNER

アカマツを混じえた広葉樹林内の地上：野鳥観察小屋付近，1997年9月21日 (KIH-AP-10069)。

今関・本郷 (1989) によれば尿素を散布した林内地上に発生すると記述されているが，厳密な意味でのアンモニア菌ではなく，偶発的に子実体形成が誘導されたものではないかと考える。

Cantharellus cf. pudorinus CORNER

シラカシの樹下：菖蒲池南側歩道縁，1997年9月21日 (KIH-AP-10064)。

帯紅淡紫色のかさと乳白色～象牙色の柄・ひだを備えたやや小形の菌で，かさは次第に色褪せて汚れた黄褐色を帯びてくる。胞子は無色・平滑で広楕円形をなし，かさの表皮はやや立ち上がったピンク色の内容物を含む菌糸からなる。

CORNER (1966) が東南アジアから記載した上記の菌によく似ているが，学名の決定にはなお検討を要する。筆者は，本種を東京都 (文京区・世田谷区・練馬区) で採集しているが，横山元氏 (埼玉さきの研究会) からの私信によれば，埼玉県上尾市でも見出されているという。恐らく，本州太平洋側の照葉樹林帯には普通に分布するものであろう。

ホウキタケ科 Ramariaceae

? *Ramaria pusilla* (PECK) CORNER

ヒマラヤスギ樹下の腐植上：1997年9月21日 (KIH-AP-10071)。

帯黄オリーブ色を呈する小形のホウキタケである。外

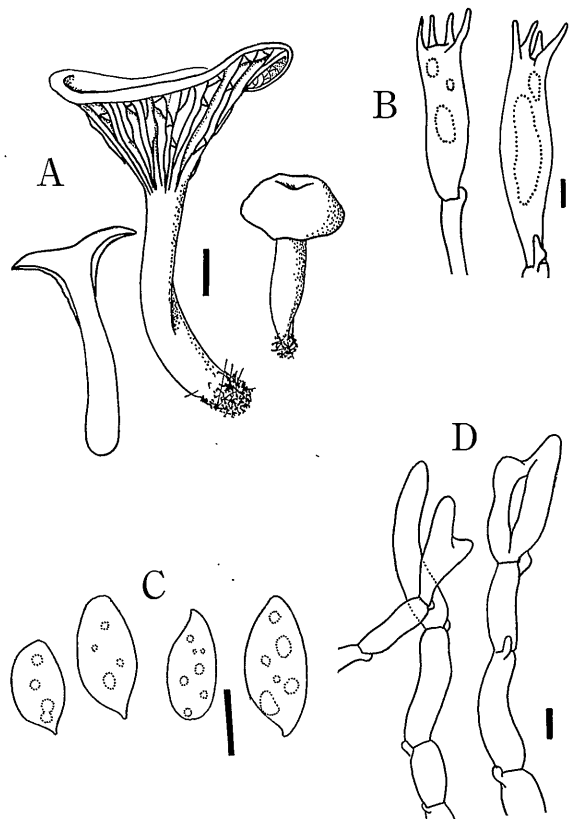


図2 *Cantharellus cf. pudorinus*. A: 子実体. B: 担子器. C: 胞子. D: かさ表皮の構成菌糸 (スケール: A=2センチ; B, C=5 μ m; D=10 μ m)

観や顕微鏡の所見は，CORNER (1970) および MARR & STUNTZ (1973) による表記の菌の記載にかなりよく一致するが，上記の標本はかなり老成していたため，その色調は本来のものからややかけ離れている恐れがあり，また化学的呈色反応や肉の味・においおよび変色性についてのデータが得られなかったため，ここでは疑問符を付しておく。なお，*R. pusilla* の分布については，日本国内での従来の記録はなされていない。

イボタケ科 Thelephoraceae

Thelephora cf. spiculosa (FR.) BURTT.

路傍の赤土上：1997年6月28日 (KIH-AP-09984)。

子実体の肉眼的所見や組織の構造は，*T. spiculosa* のそれによく一致するが，PHILLIPS (1981) によれば，*T. spiculosa* の胞子は上記の資料のそれに比べてやや大きいようである。

スエヒロタケ科 Schizophyllaceae

スエヒロタケ *Schizophyllum commune* FR.

広葉樹の倒木・枯れ枝上：枡形山付近，1997年8月31日 (KIH-AP-10057)。

タコウキン科 Polyporaceae

ヤケイロタケ *Bjerkandera adusta* (WILLD.: FR.)

KARST.

広葉樹 (樹種不明) の切り株・倒木上：1997年8月31日 (KIH-AP-10046 および AP-10047)。

ニッケイタケ *Coltricia cinnamomea* (PERS.) MURR.
路傍の赤土上：野鳥観察小屋付近，1997年6月28日
(KIH-AP-09983) および菖蒲池付近 (KIH-AP-099
80)；同，枳形山，1997年9月21日 (KIH-AP-10075)。

ニクウスバタケ *Coriolus brevis* (BERK.) AOSHIMA
スダジイ生立ち木の枯死部：1997年8月31日
(KIH-AP-10045)；?コナラ切り株上：自然観察
路，1997年9月21日 (KIH-AP-10073)。

カワラタケ *Coriolus versicolor* (L.) QUÉL.
広葉樹の枯れ枝・倒木・切り株上：1997年8月31
日 (KIH-AP-10056)；ソメイヨシノの枝枯れ部：
1997年10月19日 (KIH-AP-10090)。

エゴノキタケ *Daedaleopsis styracina* (P. HENN. et
SHIRAI) IMAZEKI

エゴノキの地上に落ちた枯れ枝および立ち木の枝枯
れ部上：1996年7月7日 (KIH-AP-09994)。

チャカイガラタケ *Daedaleopsis tricolor* (BULL. :
FR.) BOND. et SING.

ソメイヨシノの枯れ枝上：自然観察路入り口付近，
1997年10月19日 (KIH-AP-10092)。

カイガラタケ *Lenzites betulila* (L.) FR.
広葉樹の枯れ枝・倒木・切り株上：1997年8月31
日 (KIH-AP-10051~AP-10053)；同，自然観察路
入り口付近，1997年10月19日 (KIH-AP-10091)。

ウチワタケ *Microporus flabeliiformis* (FR.) O. KUNTZE
コナラおよびスダジイの枯れ枝上：1997年8月31
日 (KIH-AP-10050)。

ツヤウチワタケモドキ *Microporus subaffinis* (LLO-
YD) IMAZEKI

クヌギ倒木上：自然観察路入り口付近，1997年6
月28日 (KIH-AP-09988)。

ツヤウチワタケ *Microporus vercinipes* (BERK.) O.
KUNTZE

コナラ枯れ枝上：1996年7月7日 (KIH-AP-099
02)；コナラ枯れ枝上，1997年6月28日 (KIH-AP-
09987)；コナラ枯れ枝上：藍染め工房付近，1997年9
月21日 (KIH-AP-10072)；クリ枯れ枝上：枳形山，
1997年10月19日 (KIH-AP-10096)。

前種との分類学的異同については，交配試験や生理的
性質などを含めて詳細な検討を要する。

オオオシロイタケ *Oligoporus* sp.

コナラの立ち枯れ木上：自然観察路，1997年6月
28日 (KIH-AP-09989)。

アオゾメタケ *Oligoporus caesius* (SCHRAD. : FR.)
GILBN. et RYVARDEN

コナラ枯れ枝上：1997年7月7日 (KIH-AP-099
91)。

アミスギタケ *Polyporus arcularius* BATSCH : FR.
広葉樹(樹種不明)の切り株上：県の木見本園，1997
年6月28日 (KIH-AG-09982)。

スジウチワタケモドキ *Polyporus emericus* COOKE

アラカシ倒木上：1996年7月7日 (KIH-AP-0999

0)；コナラ切り株上：1997年8月31日 (KIH-AP-
10054)；広葉樹(樹種不明)の枯れ木上：自然観察路，
1997年9月21日 (KIH-AP-10074)。

キアシグロタケ *Polyporus varius* FR.

コナラ枯れ枝上：民家園入り口付近，1997年8月
31日 (KIH-AP-10043)；同，自然観察路-枳形山，
1997年10月19日 (KIH-AP-10095)。

ヌルデタケ *Porodisculus pendulus* (SCHW.) MURR.

コナラの枯れ木上：藍染め工房付近，1997年10月
19日 (KIH-AP-10094)。

スルメタケ *Rigidoporus zonalis* (BERK.) IMAZ.

サクラ属の切り株上：藍染め工房付近，1997年6
月28日 (KIH-AP-09986)。

ホウネンタケ *Roseofomes subflexibilis* (BERK. et CU-
RT.) AOSHIMA

コナラ倒木上：1997年8月31日 (KIH-AP-10049)。

アナタケ *Schizospora paradoxa* (SCHRAD. : FR.)

DONK

コナラ枯れ枝上：1996年7月7日 (KIH-AP-09993)。

ウズラタケ *Truncospora ochroleuca* (BERK.) PILAT

コナラ枯れ枝上：1997年8月31日 (KIH-AP-10
044)。属名については，今後の検討の余地がある。

マンネンタケ科 Ganodermataceae

コフキササルノコシカケ *Elfvingia applanata* (PERS.)

KARST.

コナラ切り株上：1997年8月31日 (KIH-AP-10
055)。

タバコウロコタケ科 Hymenochaetaceae

ネンドタケモドキ *Phellinus gilvoides* (LLOYD) IMAZ.

コナラ枯れ枝上：1996年7月7日 (KIH-AP-099
92)。

IV 菌類相からみた生田緑地の生物地理学的環境

生田緑地は，気象条件や地形あるいは樹木を始めとする
菌類以外の生物相からすれば，関東地方低地帯に立地
した公園林の一典型といってもよいと考えられる。北部
の湿地帯に発達した *Alnus* (ハンノキ) 属を主とする落
葉樹林は，公園林としてはやや特殊なものではあるが，
本稿で扱った菌群のみを指標として考えると，少なくとも
現時点では特にこの湿地林を特徴づけるような菌は記
録されていない。

生田緑地には，温帯の低地から暖帯にかけて分布する
外生菌根樹木の主要な種類がほぼそろっており，発生す
るきのこにも，これらに随伴して分布するものが多い。
外生菌根の形成能力が知られている樹種としては，上述
したハンノキ属や外来種であるヒマラヤスギなども重要
視され，しばしば特徴ある菌が発生する。

一方，生田緑地内にも普通に見出されるアケビ・ミズ
キ・アオキ・ヤブツバキ・アズマネザサなどの植物は外
生菌根形成能を欠き，一般的なきこの調査の際には基質

として顧みられることが少ないが、これらの植物に随伴する特殊な菌がいくつか知られており、将来は日本全国にわたってその分布状況を調査する必要がある。

きのこ類の中には、地理的分布を拡大するにあたって従来の分布地域において生態的関連を有していた樹種と同属または同科の樹木への「生態的乗り換え」を行なったと考えられるものが多数知られている（今関、本郷、1987）が、生田緑地に産するきのこ類の多くは、ユーラシアあるいは東南アジアを本来の分布地域とし、ブナ科の広葉樹を媒体としてこの地域に定着した菌であると思われる。その例として、日本の常緑広葉樹（スダジイ・アラカシなど）から落葉広葉樹（クヌギ・コナラなど）に乗り換えつつあると考えられる *Microporus flabelliformis*（ウチワタケ）・*M. subaffinis*（ツヤウチワタケモドキ）・*M. vercinipes*（ツヤウチワタケ）などが挙げられる。*Cantharellus* cf. *puerinus* は分類学的にさらに検討する必要があるが、その分布域についても今後の調査を要するが、筆者が観察した限り、その発生はほとんど常にシラカシの樹下で認められており、暖帯の常緑広葉樹林を主な生活域としていられると思われる。なお、東京都練馬区からはクヌギを主とする林内（常緑のカシ類を含まない）での発生が確認されており、落葉性の *Quercus*（ナラ）属樹種への乗り換えが行なわれていることを示唆している（井口、未発表）。

このほか、広葉樹の材腐朽菌である *Auricularia polytricha*（アラゲキクラゲ）・*Roseofomes subflexibilis*（ホウネンタケ）や *Rigidoporus zonalis*（スルメタケ）なども、熱帯系の菌であるといわれている（今関・本郷、1989；今関ほか、1988）。

さらに、樹木と直接の生態的関連を有しているものとはいえないが、*I. sinclairii*（ツクツクボウシタケ）はツクツクボウシやアブラゼミを宿主とし、日本（東北地方南部以南）・中国南部・南米・セイロン・マダガスカル・ニュージーランドおよびオーストラリアに分布しており（清水、1997）、分布の中心はやはり暖帯から亜熱帯にあるとみるべきであろう。

なお、興味深い分布を示す菌として *Xylaria persicaria* が挙げられる。生田緑地内では常に地上に落ちたフウ属の偽果上に見出され、筆者が京都市内や東京都八王子市から得た標本も同様であった。ROGERS (1979) はカナダに産することを報じており、基質はやはりフウ属植物の偽果であったとしている。日本に現生するフウ属植物はすべて植栽品である。この観点からして、*X. persicaria* は帰化菌類の一例として扱うのが妥当であり、外国産樹種の植栽が日常的に行なわれ得る市街地のきのこ相の、一つの特色となる要素であると考えられる。生田緑地内には、この他にも何種類かの外国産樹木の植栽品が現存しており、これらに生態的関連を持つきのこ類の調査は、日本の菌類相を考察する上で興味ある視点を提供すると期待される。

謝 辞

本稿を発表する場を提供され、原稿作成に当たって多くの有益な助言を賜った青少年科学館の若宮崇令館長に謝意を表す。また、筆者の日常の研究を多方面に渡り援助され、併せて種々の助言をいただいている財団法人平岡環境科学研究所の平岡正三郎所長および同研究所のスタッフの方々にも篤く御礼申し上げたい。

また、実際のフィールドワークに際しては、菌類懇話会のメンバー各位の御協力を仰いだ。個々の氏名は挙げないが、併せて深謝したい。

引用文献

- ・阿倍恭久 (1985) クロコブタケ (*Hypoxyylon truncatum* (SCHW.:FR.) J. H. MILLER) の分類について。日本菌学会第39回大会講演要旨集。p.73。(日本菌学会)。
- ・CORNER E. J. H. (1970) Supplement to A Monograph of *Clavaria* and allied genera (Beih. Nova Hedwigia 33). 299 pp. + 4 pls. (J. Cramer)。
- ・——— (1966) A monograph of Cantharelloid fungi. (Ann. Mem. Bot. 2) 255 pp. + 6 pls. (Cambridge Univ. Press)。
- ・DENNIS R. W. G. (1968) British Ascomycetes. (3rd ed.) 455 pp. + 40 pls. and 31 figs. (J. Cramer)。
- ・今関六也・本郷次雄編著 (1989) 原色日本新菌類図鑑 II. (保育社)。
- ・今関六也・大谷吉雄・本郷次雄編著 (1988) 山溪カラー名鑑日本のきのこ。623 pp. (山と溪谷社)。
- ・MARR C. D. & STUNTZ D. E. (1973) *Ramaria* of Western Washington. Bibliot. Mycol. 38:1-213. (J. Cramer)。
- ・NAGASAWA E. (1988) Notes on four species of Xylariaceae. Rept. Tottori. Mycol. Inst. 26:6-14.
- ・大谷吉雄 (1989) 日本産盤菌綱菌類目録と文献。横須賀市博研報(37):61-81.
- ・PHILLIPS R. (1981) Mushrooms and Fungi in Great Britain and Europe. (Pan Books)。
- ・ROGERS J. D. (1979). *Xylaria magnoliae* sp. nov. and comments of several other fruit-inhabiting species. Can. J. Bot. 57:941-945.
- ・——— (1984) *Xylaria cubensis* and its anamorph *Xylocoremium flabelliforme*, *Xylaria allantoides*, and *Xylaria poitei* in continental United States. Mycologia 76: 912-913.
- ・清水大典 (1997) 冬虫夏草図鑑。446 pp. (家の光協会)。